

第5回花見川区地域福祉計画策定委員会議事要旨

日 時：平成18年2月25日（土）午後2時～4時20分

場 所：畑コミュニティセンター講習室（2階）

出席委員：25名中11名出席

事務局：花見川区 村上区長、原田福祉事務所長
小川福祉事務所福祉サービス課主幹
保健福祉総務課 弓削田課長、仙田
保健福祉センター整備室 安井
健康医療課 服部
子ども家庭福祉課 松田
花見川区福祉事務所 高橋、木元
犢橋保健センター 阿部
社会福祉協議会区事務所 関

傍聴人：0名

会議内容

次第に従い、会議が進められた。すべての議題が終了した後、区長から挨拶を行った。

< 議題 >

(1) 花見川区地域福祉計画案について

事務局より資料「パブリックコメントにより提出された意見の概要（抜粋）」、「花見川区地域福祉計画（案）」に基づき説明をし、パブリックコメント（平成17年12月15日～平成18年1月16日まで実施）により提出された意見に対して、先だって開催された（2月13日）作業部会で検討した結果を踏まえて、計画書に反映すべきかどうかを検討した。以下のとおり質疑応答を行った。

最終的に区策定委員会として計画案の承認がされた。

< 質疑応答 >

委員：計画書43頁、現状と課題の中で、地区部会の未設置地区の記載があるが、天戸中学校区とさつきが丘中学校区等においては、設立の動きがあると聞いているが、このままの記載でよいのか。このことは、これまで作業部会等でも検討して記載してい

くこととなっているが、計画決定する最後の機会なので、再度討議してほしい。

委員：これまでも討議しているが、記載していく方がよい。記載していくことで、未設置地区に設立を促すかたちとなるのではないかな。

委員長：天戸については、3月19日に総会を予定しており、地区部会を立ち上げる事となる。

委員：さつきが丘については、動きはあるが、時期は4月以降になると思われる。幕張本郷においては時期的には未定であろう。未設置地区については、設立の予定と入れてもよい。本来であれば、中学校区での記載ではなく、民生委員の地区単位で記載することがより厳密なものとなる。

委員：計画はどこに配布して何年間使用するのかな。

事務局：配布先については作成部数によるが、地区フォーラムをはじめとして、各種団体に広く周知していく必要があると考えている。計画期間については5年間で、見直しは必要に応じてということになっているが、3年後を目安として考えている。

委員：固有名詞を記載するかどうか難しい問題である。原案でも未設置地区も設立に向けて鋭意努力しているという表現となっているが、どの地区も設立の動きがあるのであれば「さらに一層の努力をしている」というような記載を入れてはどうか。

委員：原案の「鋭意努力」という表現で十分ではないかな。

委員長：少なくとも天戸については、この3月に設立することが決まっているので、未設置地区ではないということで整理したほうが良いのではないかな。

事務局：計画策定は3月末であることから、少なくとも現時点(3月末)での整理をすれば良いのではないかな。天戸については、設立したことを確認次第、記載を変更することでよいかな。(未設置地区から削除し、設置地区に追加)

委員全員：了承

委員：計画書は民生委員には配布しないのかな。民生委員には全員計画書を持ってもらいたい。これまでも自分の地区には周知してきている。

委員：自治会などにはどのくらい配布しようと考えているのかな。

事務局：民生委員や自治会にもできるだけ、配布していきたい。概要版(PR版)を併せて作成するので、周知方法を考えたい。

委員：地域福祉をできるだけ多くの方に周知していくためにも、是非とも民生委員や自治会に配布できるようにしてもらいたい。

委員：パブリックコメントによる意見（P3の2）で自治会の回覧物の郵送からインターネットを利用して・・・などと出されているが、実際はかなり難しいと思われる。市の方でもそのような方向に進むとは思えない。この意見の具体的な内容を計画書に反映すべきということか。

事務局：ご意見の趣旨は、具体的な内容をそのまま記載すべきということではなく、あくまで自治会活動の向上を入れて欲しいということであると思われる。

委員：パブリックコメントによる意見（P1の6）でかかりつけ薬局についてあり、計画書59頁のオに文章が追加されているが、この表現で問題はないか。薬局で健康相談ができるのか。

委員：追加した文章は、薬剤師会にも確認している。また、薬局では薬に関する相談や健康相談を実施しており問題はないと考えている。

委員：計画書71頁には、推進協議会を中心としたネットワーク図が掲載されているが、社会福祉協議会の活動計画では同じような図で中心が社会福祉協議会になっている。整合を図る必要があるのではないか。おのおのが勝手に活動することになりはしないか。

事務局：社会福祉協議会の活動計画は、あくまで社会福祉協議会の立場で記載しているものであるため、図の表現はある程度異なっていると思われる。ただし、今後の実施に関わる活動においては、社会福祉協議会は地域福祉の中心的な担い手として役割を期待されており、その意味では整合を図っていけると考えている。

委員：この計画では、あくまで推進協議会を中心として捉えて、その委員となる方が誰になるかによるということであるのではないか。

事務局：この推進協議会は、ある一部の団体を中心にするということではなく、地域の幅広い団体等を結ぶ働きがあり、連携していくきっかけとなるものであると考えている。

委員：計画書70頁に推進協議会（仮称）とあるが、「（仮称）」は計画書の策定段階ではとれるのか。

事務局：計画書の策定は3月末であり、予定では推進協議会の委員選

定が4月までかかることを考えると「(仮称)」のままになると思われる。

委員：パブリックコメントによる意見(P1の1)であるが、計画書18頁で表現している児童とは義務教育を想定しているのか
そうであるならば、児童生徒とすべきではないか。

また、不登校になる場合、家庭にも問題がある場合が多いと記載があるが、表現に問題があるのではないか。

事務局：ここでは地区フォーラムにおいての生の声を反映しており、児童は義務教育を指しているものであったと思われるため、児童生徒と修正する必要がある。

委員：家庭に問題があるという表現は誤っているということか。

委員：学校に携わる者として申し上げると、不登校になる原因としては、友人関係などから起こるものが大半であると思われる。家庭については、不登校になって再登校する際に協力が得られない場合があるということである。したがって、家庭に問題がある場合が「多い」とは言えないと思われる。

委員：根本的には家庭に問題がある場合が多いということは言えないのか。

委員：必ずしも家庭に問題があると言えないと思われる。

委員：不登校に「なる」という、表現が原因を示していることが問題であるのではないか。

委員：家庭にも問題があるという表現の前にいくつかの原因を記載すれば良いのではないか。

委員：不登校による問題においては、あるいは不登校に関する問題においては、というように、原因を意味しない表現はどうか。

委員：不登校の子どもを持つ親がこの記載を見たときにどう思われるかを考えたほうがよいのではないか。

委員：不登校になって再登校する際に家庭の協力が得られない場合があることもひっくるめて家庭に問題があると表現するのはどうか。

委員：ここでは、身近な生活支援・声なき要支援者の発見という項目で生活課題を整理しており、この計画がいかにかこのような方々を支援していこうという趣旨のものであるのだから、少なくとも不登校の子どもを持つ親が見て不快感を与えるような記載はしないほうがよいと思われる。

委員：私から見ても、この表現を見たときにあまり良い気持ちを持

たないのではないかと思います。

委員：ここは作業部会でも多く議論してきたものであるので、どうなのか。

委員：不登校に関わる方々に対するバッシングになってしまうようでは、この計画の趣旨に反してしまうのではないか。

この趣旨に合うような表現を考えるべきではないか。

委員：パブリックコメントによる意見（P1の1）のとおり、修正すれば問題はないか。

委員：家庭に「も」を入れることにより、不登校には、いろいろな原因があって、その中に家庭の問題がある場合もあるという意味になるので問題ないと思われる。

委員：不登校について、声が出せる、相談してもいいと思えるような表現にした方がいいのではないか。

委員：当事者にとっては、とても辛く悩んでいるものであるため、感情を傷つける恐れがあるものでなく、あくまでこのような方々を支援していこうという趣旨で、温和な表現に留めておいた方がよいのではないか。

事務局：これまでの作業部会の議論も尊重しなければならないが、区策定委員会が最終の検討の場であること、また、本日は学校の専門的な立場からの貴重なご意見も頂いていることから、パブリックコメントによる意見（P1の1）を基本に修正するということではどうか。

委員長：「児童生徒が不登校になる場合、家庭にも問題がある場合もある。」という表現でどうか。

委員全員：了承

委員長：皆さんから多くのご意見等をいただき、ありがとうございます。本日の皆様のご意見等を踏まえ、計画を承認するということでよろしいか。

委員全員：了承

委員長：字句や文章表現などの細かな部分については、委員長、副委員長と事務局に一任するというでよろしいか。

委員全員：了承

(2) その他

事務局より資料「今後のスケジュールについて」、「計画の推進に関わる今後のスケジュール(案)」に基づき、今後のスケジュールについ

て説明をした。

その後、以下のとおり質疑応答を行った。

< 質疑応答 >

委員：委員を選定する際は、各団体等に事前によく説明をするのか。

事務局：委員の選定に際して団体に推薦をお願いする場合には、計画の趣旨等を説明した上でお願いすることになる。

委員：委員数は何人くらいを想定しているのか。

事務局：おおよそ20人を想定している。

委員：地区フォーラムもいいが、やる気のある公募も大事にしてもらいたい。

以上